

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200594	事業の開始年月日	2023年4月1日	
		指定年月日	2023年3月1日	
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア			
事業所名	ライブラリ福室			
	ユニット名：さくら			
所在地	(〒 983-0005)			
	宮城県仙台市宮城野区福室7丁目6-17			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名
			ユニット数	2
自己評価作成日	2024年7月18日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々が役割を持ち、日々生活できるような可能な限りの自立支援に重きを置き運営しています。日々の活動やレクリエーション、イベントは定期的に開催しており、変化のある毎日を送れるように職員で工夫しております。また、その様子はSNSに投稿する事で客観的に事業所の雰囲気が分かるような配慮をし、ご家族や第三者からみても魅力のある施設と感じてもらえるよう、尽力しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2024年8月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】 法人理念「安心を育て、挑戦を創る。」のもと、各ユニットで目標を掲げている。<もくれん> ご利用者様とかかわりあいを持ちながらよりそい、穏やかに過ごせる生活の場をつくる。<さくら> ご利用者様の生活習慣を把握し、その人らしい生活を共に支える。 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 法人は2011年に創業し、「安心を育て、挑戦を創る」を法人理念に掲げている。「持続可能な社会保障制度の構築」を目指し、介護・障がい者支援・保育を中核として100を超える事業を全国で運営している。「ライブラリ福室」は、幼稚園や小・中学校に近く、商業施設や銀行もある利便性の良い住宅街にある。同法人の有料老人ホームの建物が隣接し、居宅介護支援事業所と障がい者支援グループホームが併設された建物の2階に、2023年4月にオープンした。 【事業所の優れている点・工夫点】 ①リビングは明るく窓からは公園を望むことができ、四季折々の景色が楽しめるよう椅子やテーブルを配置している。各ユニットの間に多目的ホールがあり、運動会や夏祭り等の行事、運営推進会議の開催や訪問理・美容サービス提供時等に多岐にわたり活用されている。全居室にはトイレが設置されており、プライバシーが守りやすい。 ②各種行事やホームの様子は、利用者のプライバシーに配慮し、同意を得ながらSNS(交流サイト)で広く外部に発信している。睡眠時の見守りセンサー(眠りスキャン)、介護記録システムを取り入れる等、介護のIT化を進めている。 ③同法人の事業所と合同の避難訓練を実施して、災害時の連携・協力体制を整えている。 ④3食とも手作りの食事を提供している。入居者の希望を聞きながら季節に応じた献立も取り入れている。オープンキッチンで職員は、入居者が食事準備や片付けなどを自然に行えるように、自主的な行動を見守り、その人らしく過ごせるように自立支援に努めている。
--

V.サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	ライブラリ福室
ユニット名	さくら

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名:ライブラリ福室）「ユニット名:さくら」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット職員室に各ユニットの目標を掲げ、入居者毎に役割をもった生活が送れるようにしています。	「大地に根を張り花を咲かせ、今後も年輪を重ねて成長するように」との職員の願いを込めて樹木の名をユニットに付けている。職員は、各ユニットの入居者の状況をふまえて話し合い、行動指針を作成し職員室に掲示している。法人理念や行動指針は携帯している名札の裏に記されており、常に確認ができる。入居者に寄り添うことや役割を持って生活できるよう、意識して入居者とコミュニケーションを図り実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が明けたとはいっても、法人内各事業所は相変わらず感染者は出ている状況になり、交流にも慎重を期しております。幼稚園のイベントにお招きされ、職員が付き添う事で各入居者が参加し楽しめました。その他、誕生日会やイベントでも充実感が感じられる生活が出来るよう工夫しています。	SNS（交流サイト）を活用してホームの様子などを発信している。近隣幼稚園のイベントにも招かれ、入居者も一緒に参加した。ボランティアの来訪や認知症について家族からの問い合わせがあり、対応している。管理者は、入居者が地域と関わる機会が得られるように今後、町内会の清掃活動等に参加することを検討している。	地域交流が促進できるように、町内会への加入や地域イベントの情報収集等を積極的に取り組むことを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携により、介護サービスを利用せずに居られる方を紹介する事で適切なサービス利用に結びつくような支援も行っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各参加者からの意見は上長を交え確実に吸い上げ、出来る限り見える化した上で改善していく形をとっております。	運営推進会議は偶数月にホームの多目的ホールで開催している。メンバーは、入居者・家族、町内会長・民生委員・地域包括職員・同じ地域にある他のグループホーム職員・同法人職員・管理者である。2月には、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防対策により行政と相談をして書面で開催した。SNSの活用や入居者の状況報告書の内容の見直し等、家族等からの意見を反映している。家族全員と欠席者へは議事録で内容を報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連携も言うに及ばず、報告すべきことは迅速確実に対応するように心掛けております。	介護事業支援課への連絡相談を行い、事故等の報告等も行っている。また、生活保護の入居者について、保護課と連携して支援を実施している。介護記録システムを使用して入居者ごとに記録を行い、電子サービスにて行政へ事故報告し、情報共有を図り関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアとは何かを職員間でしっかり確認、共有する事で、振り返りや改善案を検討する事が出来ております。定期的な研修、委員会を開催しております。	「身体拘束廃止・虐待防止委員会チェック表」を活用集計し、事業所全体で自己点検を行っている。身体拘束廃止委員会では、「身体拘束適正化のための指針」を読み合わせし、議事録は全職員で共有している。入職時にはオリエンテーションにおいて身体拘束をしないケアについて周知している。計画的に研修を実施し、研修後は、全職員が基本的な知識の習得状況・気づき・感想を研修シートに記入している。入居者の状態により、眠りスキャンや離床センサーを活用して身体拘束をしないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修、委員会での話し合いを通じて該当する事案が無いかの検証を行っております。	虐待防止委員会を毎月開催し、虐待についての関連法について理解を深めている。ヒヤリ・ハット報告による事例の共有、身体拘束廃止委員会、生産性向上事故対策委員会との関連委員会と協力して、虐待防止に努めている。管理者は四半期に1度職員と面談を行っている。法人には、内部通報窓口や社内カウンセリングチームがある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定研修を通じて、全職員が学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前の契約、利用説明においてももちろんですが、事前の相談の段階においても出来る事、難しい事については説明をし、ご理解をいただいております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご意見を踏まえ、事業所運営における改善案と捉え前向きに検討し、見える化した上でご家族等に提示する形をとっております。	運営推進会議には複数の家族が参加しており、意見を聞く機会がある。運営状況や事故ヒヤリ・ハット、行事等の報告を行い、出された意見は改善に向け検討している。毎月、入居者状況報告書を作成して入居者個別に書面報告する等、運営推進会議での意見提案をもとに改善に向けた取り組みを行っている。入居者のプライバシーに配慮しながら、ホーム内の様子をSNSで広く外部にも発信している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社に四半期評価面談という仕組みがありますので、そちらで個々に面談を行う他、その他においても随時面談をし課題解決に努めております。	全職員が四半期に1度管理者と面談する機会がある。目標の達成状況の確認の他に、要望や提案を聞いている。給与条件や浴室設備改修等、職員が意見しやすい環境ではある。居室の掃除や入居者の写真の構図変更等は職員の意見を反映しているが模索している点もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社に四半期評価面談という仕組みがありますので、そちらで個々に面談を行う他、その他においても随時面談をし課題解決に努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各研修への参加促進のほか、資格取得に向けての動きも明確化する事で全体のスキルアップに繋がるよう努めております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では、地域のグループホームの管理者との情報共有のほか、サービスの質の向上に繋がるよう努めております。	運営推進会議のメンバーとして地域にある他法人のグループホームの管理者が参加しているが、合同での学習会や活動等の交流には至っていない。同法人の障害者支援グループホームや有料老人ホームとは行事等で交流する機会がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、受容の対応が基本ですが、まずは入居者個々がどのようなお話、訴えをしているのか、多角的に捉えられるよう日々関わりを持たせていただいております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴、受容の対応が基本ですが、ご家族個々がどのようなお話、訴え、ご希望をしているのか、多角的に捉えられるよう日々関わりを持たせていただいております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーがアセスメントを充分に行い、ケアプランに落とし込んだ上で提示、説明を行い同意を得た上でサービスの開始となります。それについては、達成度を確認した上で更新後のケアプランに活かすようにしております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、分かる事はそのまま行っていたいただき、かつ日常生活において役割をもつていただくよう対応しております。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長年連れ添って来られたご家族の意見を踏まえながら、関わりの中でのヒントとし対応方法上の参考、実践としております。			
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会や外出も、コロナ禍ではあるが段階的な制限解除となりましたので積極的に関わりをもつていただいております。	家族との外出や外食ができるように支援している。馴染みの理・美容室へや、家族と一緒に墓参り等に行くことができるよう取り組んでいる。電話やLINEで友人等との交流を続けたり、友人に書籍購入を頼んで届けてもらっている入居者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同ユニット、他ユニットの入居者同士が関わりを持ちやすい環境をフルに活かした対応をとっております。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域に生活されているご家族も多い為、サービス終了後においても必要に応じて相談支援するように努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、ご家族の意向を十分に尊重したサービス提供としております。	入居者の話をしっかり聴き「孫に会いたい」「お墓参りをしたい」等の希望がかなうよう、家族と共に努めている。会話以外にも表情・食欲・バイタル等の全身状態を把握しながら、入居者の思いをくみ取れるよう取り組んでいる。入居者の生活歴や意向は、個別記録や申し送りノートにより職員間で共有し、ケア会議で支援方法の見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にアセスメントを充分に行い、ケアプランに反映するようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前にアセスメントを充分に行い、ケアプランに反映するようにしております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ケアカンファレンスにおいて、日々の関わりの中での課題点を話し合い、改善案を検討実践する事で乖離のない計画となるよう努めております。	入居者の日々の様子や意向を確認し、担当職員がモニタリングシートを作成している。ケア会議では、全職員でプランの評価や見直しを行い介護計画を作成している。家族からの訪問歯科・機能訓練等についての意見や要望も反映し同意を得ている。状態により可能な場合には、入居者に署名してもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録上では申し送り機能がある為、そちらを活用する事で各ユニットの職員間での情報共有が出来ております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟な対応を心がけております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの一つですので、地域に根差した運営となるよう心がけております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診医、薬局の他、訪問看護との連携も行いつつ、それ以外の医療機関との相談連携もスムーズに行い、包括的な医療を受けられるよう対応しております。	入居者は協力医医療機関をかかりつけ医に指定している。眼科等の専門医の定期的な受診は家族が付き添っている。家族対応が難しい場合には、有料で職員が対応することも可能である。訪問医・訪問歯科・訪問看護・薬局等の医療連携体制を整え、介護システムを利用した記録を職員間で共有している。服薬管理については、ヒヤリ・ハット報告による検討、改善を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との健康状態の共有を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側の相談員、主治医、ケアマネ、ご家族との連絡調整にて、滞りが発生しないように努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化の対応の指針の確認を行い、その後においても説明を行っております。	契約時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を入居者と家族に説明している。入居時には、入居者と家族が看取りについて話し合うよう伝えている。入居者の状態を確認し、重度化した場合には職員も同席し医師から家族に説明を行っている。看取り実績があり、看取り後はケア会議にて職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡の前後が発生しうる事は契約時に説明をしております。優先度を判断し、適切に対応しております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設との連携、避難訓練体制の確認を行っております。BCPにおいても例に漏れません。	災害マニュアルとBCPを作成し、夜間火災避難時の行動指針が示されている。洪水時の避難確保計画も作成し、避難訓練は、併設の同法人の有料老人ホーム、障がい者支援グループホーム、居宅介護支援事業所と合同で年2回実施している。災害時には、法人独自の連絡アプリで、出勤している職員以外に応援依頼を発信することが可能である。設備点検は業者が行い、備蓄品は管理者が管理している。感染症対応マニュアルを作成し、研修を行い、職員へ周知している。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法定研修での基本的な事項の確認をはじめ、適切な対応をとっております。	接遇やプライバシー保護についての研修を行っている。職員は、不適切ケアについて事例検討を行い、入居者の人格尊重とプライバシー保護に努め支援している。入居者の個人情報関連書類等は職員室に保管している。また、各部屋にトイレがあり、部屋の内鍵がかけられる等、羞恥心やプライバシーに配慮した環境が整えられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容と傾聴により、意向を確認出来るよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や訴え、様子を総合的に判断し、かかわりに活かしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装選びが出来るよう、定期的にご家族に服の交換、準備をお願いしております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同席の方との会話を楽しみつつ、食事そのものも見えて楽しめるような配慮・工夫をしております。	外部業者による献立と食材により、3食とも職員が手作りしている。入居者の希望を聞きながら、レクリエーション・行事委員会と担当職員が季節に応じた献立も取り入れている。職員は、入居者が役割をもって調理や後片付けができるように支援し、食事が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立によって、栄養バランスは図れております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な口腔ケアに加え、訪問歯科での調整、治療にも対応しております。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	十分なカンファレンス、モニタリング、アセスメントにて支援方法に活かしております。	基本的には定時の排泄介助を行っている。入居者の要望や排泄チェック表により排泄パターンを把握して、個別に対応している。食事や軽体操等により便秘予防を行い、訪問看護師の管理のもとに便秘対策がとられている。入居者の意向により、リハビリパンツから布パンツへ変更して対応する等、自立支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活上でのタイムスケジュールにて、時間の感覚を忘れないような工夫をしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お誘い方法、対応の検討をしっかりと行い、実践しております。	基本週2回、午前中の入浴を支援しているが、状況により午後の場合もある。入居者ごとに湯を交換し、入居者のペースでゆっくり入浴できるよう努めている。入居者は、職員と一対一で話ができる機会として楽しみにしている。ゆず湯や菖蒲湯等の行事湯や入浴剤を使用し楽しむこともある。入浴を好まない入居者にも、声かけを工夫して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内外の環境、ナイトケアによりゆっくりお休みいただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前後で日付、内容をしっかり確認し、間違いの発生しないように対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味嗜好も把握したうえで、活動内容に反映出来る部分は活かしております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに季節を感じていただくよう支援しております。	年間計画はないが同法人の他事業所と共有している車を使用し、季節に合わせ多賀城市のあやめ園への外出や花見を楽しんでいる。その日の天気や入居者の状態により、近所で買い物や散歩する機会をつくり、外気浴などで気分転換を図っている。自宅への外泊外出、外食等を家族の協力のもとに支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、購買する事はほとんどありませんが、行事によって必要な際にはご家族とも相談する形としております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況によって、またご家族の事情も考慮した上での判断としております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り統一感のあるフロア、居室となるよう配慮しております。	リビングには横長で広い窓があり、明るく開放的である。四季折々の公園の景色が楽しめるよう、窓に向けて椅子やテーブルが配置してある。壁には七夕飾りなど季節感のある手作りの作品を掲示し、時計やカレンダーも見やすい場所にある。ソファやテレビを設け、入居者が好きな場所で過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員、入居者が交流を図りやすい環境は整っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをお持ちいただく事で、自身の家という認識を早い段階でもっていただけるよう配慮しております。	居室の入り口に表札がある。全ての居室には、トイレ・洗面台・エアコン・ベッド・キャビネット・クローゼット・カーテン・テレビが備えられ、内鍵をかけることもできる。入居者は、ぬいぐるみ・写真・腕時計やブレスレット等、入居者の馴染みの物を置くなど、落ち着いて過ごせるよう配慮している。入居者が使いやすいように、衣類や小物等を整理整頓している。また、温・湿度管理及びトイレ清掃は毎日職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険物は事前に撤去し、安全に配慮しております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200594	事業の開始年月日	2023年4月1日		
		指定年月日	2023年3月1日		
法人名	株式会社リビングプラットフォームケア				
事業所名	ライブラリ福室 ユニット名：もくれん				
所在地	(〒 983-0005) 宮城県仙台市宮城野区福室7丁目6-17				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名	
			ユニット数	2	
自己評価作成日	2024年7月18日	評価結果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個々が役割を持ち、日々生活できるような可能な限りの自立支援に重きを置き運営しています。日々の活動やレクリエーション、イベントは定期的に開催しており、変化のある毎日を送れるように職員で工夫しております。また、その様子はSNSに投稿する事で客観的に事業所の雰囲気が分かるような配慮をし、ご家族や第三者からみても魅力のある施設と感じてもらえるよう、尽力しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	2024年8月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】 法人理念「安心を育て、挑戦を創る。」のもと、各ユニットで目標を掲げている。 〈もくれん〉 ご利用者様とかかわりあいを持ちながらよりそい、穏やかに過ごせる生活の場をつくる。 〈さくら〉 ご利用者様の生活習慣を把握し、その人らしい生活を共に支える。 【事業所の概要】 母体法人について・立地環境・建物の特徴等 法人は2011年に創業し、「安心を育て、挑戦を創る」を法人理念に掲げている。「持続可能な社会保障制度の構築」を目指し、介護・障がい者支援・保育を中核として100を超える事業を全国で運営している。「ライブラリ福室」は、幼稚園や小・中学校に近く、商業施設や銀行もある利便性の良い住宅街にある。同法人の有料老人ホームの建物が隣接し、居宅介護支援事業所と障がい者支援グループホームが併設された建物の2階に、2023年4月にオープンした。 【事業所の優れている点・工夫点】 ①リビングは明るく窓からは公園を望むことができ、四季折々の景色が楽しめるよう椅子やテーブルを配置している。各ユニットの間に多目的ホールがあり、運動会や夏祭り等の行事、運営推進会議の開催や訪問理・美容サービス提供時等に多岐にわたり活用されている。全居室にはトイレが設置されており、プライバシーが守りやすい。 ②各種行事やホームの様子は、利用者のプライバシーに配慮し、同意を得ながらSNS(交流サイト)で広く外部に発信している。睡眠時の見守りセンサー(眠りスキャン)、介護記録システムを取り入れる等、介護のIT化を進めている。 ③同法人の事業所と合同の避難訓練を実施して、災害時の連携・協力体制を整えている。 ④3食とも手作りの食事を提供している。入居者の希望を聞きながら季節に応じた献立も取り入れている。オープンキッチンで職員は、入居者が食事準備や片付けなどを自然に行えるように、自主的な行動を見守り、その人らしく過ごせるように自立支援に努めている。

V.サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

事業所名	ライブラリ 福室
ユニット名	もくれん

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）	56 ～ 68	

自己評価および外部評価結果（事業所名:ライブラリ福室）「ユニット名:もくれん」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット職員室に各ユニットの目標を掲げ、入居者毎に役割をもった生活が送れるようにしています。	「大地に根を張り花を咲かせ、今後も年輪を重ねて成長するように」との職員の願いを込めて樹木の名をユニットに付けている。職員は、各ユニットの入居者の状況をふまえて話し合い、行動指針を作成し職員室に掲示している。法人理念や行動指針は携帯している名札の裏に記されており、常に確認ができる。入居者に寄り添うことや役割を持って生活できるよう、意識して入居者とコミュニケーションを図り実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が明けたとはいっても、法人内各事業所は相変わらず感染者は出ている状況になり、交流にも慎重を期しております。幼稚園のイベントにお招きされ、職員が付き添う事で各入居者が参加し楽しめました。その他、誕生日会やイベントでも充実感が感じられる生活が出来るよう工夫しています。	SNS（交流サイト）を活用してホームの様子などを発信している。近隣幼稚園のイベントにも招かれ、入居者も一緒に参加した。ボランティアの来訪や認知症について家族からの問い合わせがあり、対応している。管理者は、入居者が地域と関わる機会が得られるように今後、町内会の清掃活動等に参加することを検討している。	地域交流が促進できるように、町内会への加入や地域イベントの情報収集等を積極的に取り組むことを期待する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連携により、介護サービスを利用せずに居られる方を紹介する事で適切なサービス利用に結びつくような支援も行っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各参加者からの意見は上長を交え確実に吸い上げ、出来る限り見える化した上で改善していく形をとっております。	運営推進会議は偶数月にホームの多目的ホールで開催している。メンバーは、入居者・家族、町内会長・民生委員・地域包括職員・同じ地域にある他のグループホーム職員・同法人職員・管理者である。2月には、新型コロナウイルス・インフルエンザ等の感染症予防対策により行政と相談をして書面で開催した。SNSの活用や入居者の状況報告書の内容の見直し等、家族等からの意見を反映している。家族全員と欠席者へは議事録で内容を報告している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連携も言うに及ばず、報告すべきことは迅速確実に対応するように心掛けております。	介護事業支援課への連絡相談を行い、事故等の報告等も行っている。また、生活保護の入居者について、保護課と連携して支援を実施している。介護記録システムを使用して入居者ごとに記録を行い、電子サービスにて行政へ事故報告し、情報共有を図り関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不適切ケアとは何かを職員間でしっかり確認、共有する事で、振り返りや改善案を検討する事が出来ております。定期的な研修、委員会を開催しております。	「身体拘束廃止・虐待防止委員会チェック表」を活用集計し、事業所全体で自己点検を行っている。身体拘束廃止委員会では、「身体拘束適正化のための指針」を読み合わせし、議事録は全職員で共有している。入職時にはオリエンテーションにおいて身体拘束をしないケアについて周知している。計画的に研修を実施し、研修後は、全職員が基本的な知識の習得状況・気づき・感想を研修シートに記入している。入居者の状態により、眠りスキャンや離床センサーを活用して身体拘束をしないケアを実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修、委員会での話し合いを通じて該当する事案が無いかの検証を行っております。	虐待防止委員会を毎月開催し、虐待についての関連法について理解を深めている。ヒヤリ・ハット報告による事例の共有、身体拘束廃止委員会、生産性向上事故対策委員会との関連委員会と協力して、虐待防止に努めている。管理者は四半期に1度職員と面談を行っている。法人には、内部通報窓口や社内カウンセリングチームがある。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法定研修を通じて、全職員が学ぶ機会を設けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前の契約、利用説明においてももちろんですが、事前の相談の段階においても出来る事、難しい事については説明をし、ご理解をいただいております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご意見を踏まえ、事業所運営における改善案と捉え前向きに検討し、見える化した上でご家族等に提示する形をとっております。	運営推進会議には複数の家族が参加しており、意見を聞く機会がある。運営状況や事故ヒヤリ・ハット、行事等の報告を行い、出された意見は改善に向け検討している。毎月、入居者状況報告書を作成して入居者個別に書面報告する等、運営推進会議での意見提案をもとに改善に向けた取り組みを行っている。入居者のプライバシーに配慮しながら、ホーム内の様子をSNSで広く外部にも発信している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社に四半期評価面談という仕組みがありますので、そちらで個々に面談を行う他、その他においても随時面談をし課題解決に努めております。	全職員が四半期に1度管理者と面談する機会がある。目標の達成状況の確認の他に、要望や提案を聞いている。給与条件や浴室設備改修等、職員が意見しやすい環境ではある。居室の掃除や入居者の写真の構図変更等は職員の意見を反映しているが模索している点もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社に四半期評価面談という仕組みがありますので、そちらで個々に面談を行う他、その他においても随時面談をし課題解決に努めております。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の各研修への参加促進のほか、資格取得に向けての動きも明確化する事で全体のスキルアップに繋がるよう努めております。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	運営推進会議では、地域のグループホームの管理者との情報共有のほか、サービスの質の向上に繋がるよう努めております。	運営推進会議のメンバーとして地域にある他法人のグループホームの管理者が参加しているが、合同での学習会や活動等の交流には至っていない。同法人の障害者支援グループホームや有料老人ホームとは行事等で交流する機会がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、受容の対応が基本ですが、まずは入居者個々がどのようなお話、訴えをしているのか、多角的に捉えられるよう日々関わりを持たせていただいております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴、受容の対応が基本ですが、ご家族個々がどのようなお話、訴え、ご希望をしているのか、多角的に捉えられるよう日々関わりを持たせていただいております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーがアセスメントを充分に行い、ケアプランに落とし込んだ上で提示、説明を行い同意を得た上でサービスの開始となります。それについては、達成度を確認した上で更新後のケアプランに活かすようにしております。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事、分かる事はそのまま行っていたいただき、かつ日常生活において役割をもっていただくよう対応しております。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長年連れ添って来られたご家族の意見を踏まえながら、関わりの中でのヒントとし対応方法上の参考、実践としております。			
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご面会や外出も、コロナ禍ではあるが段階的な制限解除となりましたので積極的に関わりをもっていただいております。	家族との外出や外食ができるように支援している。馴染みの理・美容室へや、家族と一緒に墓参り等に行くことができるよう取り組んでいる。電話やLINEで友人等との交流を続けたり、友人に書籍購入を頼んで届けてもらっている入居者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同ユニット、他ユニットの入居者同士が関わりを持ちやすい環境をフルに活かした対応をとっております。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ地域に生活されているご家族も多い為、サービス終了後においても必要に応じて相談支援するように努めております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向、ご家族の意向を十分に尊重したサービス提供としております。	入居者の話をしっかり聴き「孫に会いたい」「お墓参りをしたい」等の希望がかなうよう、家族と共に努めている。会話以外にも表情・食欲・バイタル等の全身状態を把握しながら、入居者の思いをくみ取れるよう取り組んでいる。入居者の生活歴や意向は、個別記録や申し送りノートにより職員間で共有し、ケア会議で支援方法の見直しを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にアセスメントを充分に行い、ケアプランに反映するようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前にアセスメントを充分に行い、ケアプランに反映するようにしております。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、ケアカンファレンスにおいて、日々の関わりの中での課題点を話し合い、改善案を検討実践する事で乖離のない計画となるよう努めております。	入居者の日々の様子や意向を確認し、担当職員がモニタリングシートを作成している。ケア会議では、全職員でプランの評価や見直しを行い介護計画を作成している。家族からの訪問歯科・機能訓練等についての意見や要望も反映し同意を得ている。状態により可能な場合には、入居者に署名してもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録上では申し送り機能がある為、そちらを活用する事で各ユニットの職員間での情報共有が出来ております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟な対応を心がけております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型サービスの一つですので、地域に根差した運営となるよう心がけております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診医、薬局の他、訪問看護との連携も行いつつ、それ以外の医療機関との相談連携もスムーズに行い、包括的な医療を受けられるよう対応しております。	入居者は協力医医療機関をかかりつけ医に指定している。眼科等の専門医の定期的な受診は家族が付き添っている。家族対応が難しい場合には、有料で職員が対応することも可能である。訪問医・訪問歯科・訪問看護・薬局等の医療連携体制を整え、介護システムを利用した記録を職員間で共有している。服薬管理については、ヒヤリ・ハット報告による検討、改善を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との健康状態の共有を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側の相談員、主治医、ケアマネ、ご家族との連絡調整にて、滞りが発生しないように努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化の対応の指針の確認を行い、その後においても説明を行っております。	契約時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を入居者と家族に説明している。入居時には、入居者と家族が看取りについて話し合うよう伝えている。入居者の状態を確認し、重度化した場合には職員も同席し医師から家族に説明を行っている。看取り実績があり、看取り後はケア会議にて職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡の前後が発生しうる事は契約時に説明をしております。優先度を判断し、適切に対応しております。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設との連携、避難訓練体制の確認を行っております。BCPにおいても例に漏れません。	災害マニュアルとBCPを作成し、夜間火災避難時の行動指針が示されている。洪水時の避難確保計画も作成し、避難訓練は、併設の同法人の有料老人ホーム、障がい者支援グループホーム、居宅介護支援事業所と合同で年2回実施している。災害時には、法人独自の連絡アプリで、出勤している職員以外に応援依頼を発信することが可能である。設備点検は業者が行い、備蓄品は管理者が管理している。感染症対応マニュアルを作成し、研修を行い、職員へ周知している。	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法定研修での基本的な事項の確認をはじめ、適切な対応をとっております。	接遇やプライバシー保護についての研修を行っている。職員は、不適切ケアについて事例検討を行い、入居者の人格尊重とプライバシー保護に努め支援している。入居者の個人情報関連書類等は職員室に保管している。また、各部屋にトイレがあり、部屋の内鍵がかけられる等、羞恥心やプライバシーに配慮した環境が整えられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受容と傾聴により、意向を確認出来るよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や訴え、様子を総合的に判断し、かかわりに活かしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある服装選びが出来るよう、定期的にご家族に服の交換、準備をお願いしております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同席の方との会話を楽しみつつ、食事そのものも見えて楽しめるような配慮・工夫をしております。	外部業者による献立と食材により、3食とも職員が手作りしている。入居者の希望を聞きながら、レクリエーション・行事委員会と担当職員が季節に応じた献立も取り入れている。職員は、入居者が役割をもって調理や後片付けができるように支援し、食事が楽しめるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立によって、栄養バランスは図れております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な口腔ケアに加え、訪問歯科での調整、治療にも対応しております。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	十分なカンファレンス、モニタリング、アセスメントにて支援方法に活かしております。	基本的には定時の排泄介助を行っている。入居者の要望や排泄チェック表により排泄パターンを把握して、個別に対応している。食事や軽体操等により便秘予防を行い、訪問看護師の管理のもとに便秘対策がとられている。入居者の意向により、リハビリパンツから布パンツへ変更して対応する等、自立支援が行なわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活上でのタイムスケジュールにて、時間の感覚を忘れないような工夫をしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お誘い方法、対応の検討をしっかりと行い、実践しております。	基本週2回、午前中の入浴を支援しているが、状況により午後の場合もある。入居者ごとに湯を交換し、入居者のペースでゆっくり入浴できるよう努めている。入居者は、職員と一対一で話ができる機会として楽しみにしている。ゆず湯や菖蒲湯等の行事湯や入浴剤を使用し楽しむこともある。入浴を好まない入居者にも、声かけを工夫して入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内外の環境、ナイトケアによりゆっくりお休みいただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前後で日付、内容をしっかり確認し、間違いの発生しないように対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味嗜好も把握したうえで、活動内容に反映出来る部分は活かしております。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに季節を感じていただくよう支援しております。	年間計画はないが同法人の他事業所と共有している車を使用し、季節に合わせ多賀城市のあやめ園への外出や花見を楽しんでいる。その日の天気や入居者の状態により、近所で買い物や散歩する機会をつくり、外気浴などで気分転換を図っている。自宅への外泊外出、外食等を家族の協力のもとに支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、購買する事はほとんどありませんが、行事によって必要な際にはご家族とも相談する形としております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の状況によって、またご家族の事情も考慮した上での判断としております。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り統一感のあるフロア、居室となるよう配慮しております。	リビングには横長で広い窓があり、明るく開放的である。四季折々の公園の景色が楽しめるよう、窓に向けて椅子やテーブルが配置してある。壁には七夕飾りなど季節感のある手作りの作品を掲示し、時計やカレンダーも見やすい場所にある。ソファやテレビを設け、入居者が好きな場所で過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員、入居者が交流を図りやすい環境は整っております。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをお持ちいただく事で、自身の家という認識を早い段階でもっていただけるよう配慮しております。	居室の入り口に表札がある。全ての居室には、トイレ・洗面台・エアコン・ベッド・キャビネット・クローゼット・カーテン・テレビが備えられ、内鍵をかけることもできる。入居者は、ぬいぐるみ・写真・腕時計やブレスレット等、入居者の馴染みの物を置くなど、落ち着いて過ごせるよう配慮している。入居者が使いやすいように、衣類や小物等を整理整頓している。また、温・湿度管理及びトイレ清掃は毎日職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険物は事前に撤去し、安全に配慮しております。		